

<今日の説教のポイント コリントの信徒への手紙 I 1 章 10～17 節 >

①「わたしはパウロにつく」「わたしはアポロに」(12) どういうこと？

ここで「～につく」と訳されているのは原文では「～の、所有格」です。つまり、「～のもの」という意味です。このように訳されている他の所を開けてみたいと思います(ガラテヤの信徒への手紙 3:26～29, P. 346)。パウロが、まさに、「あなたがたは、皆、イエス・キリストによって(の中に！入れられたのだから)色んな違いを超えて一つなのです！」、と呼びかけているのが伝わってくる箇所です。キリストによって救われるとは、つまり、救われた時に生まれるはずの状況とはそういうものなのです！

②イエス・キリストとつながる、イエス・キリストにつなげる！

キリスト教の信仰を身につける時に大事なことの一つに「イエス・キリストとつながる」ということがあります。どんな立派に思える牧師であっても、長老であっても、その人に惚れこむのではなく、キリストに惚れこまなくてはなりません。また導く牧師や長老も、自分に引き付けるのではなく、キリストに引き付けなくてはならないのです。このことを牧師も、長老も、信徒一人一人も心掛けておかないと、このコリントの教会で起こったようなことはいつの教会でも起こり得ます。このこと、つまり「イエス・キリストが重要なのだ」ということを、パウロはこの後、洗礼ということを持ち出して語っています(13b-17)。「誰の名による洗礼を受けたのですか、イエス・キリストでしょ」と。

③キリストに目を向けるところから再び始められる！ そのための場、教会！

今日の箇所から教えられること、パウロが強く語りかけていることは、イエス・キリストがなして下さったことに思いを向ける中で、自分の姿、罪深い姿に目を向けることができるようになり、それによって方向転換することが可能となるということです。つまり、相手をばかり責め、悪く言うことを止め、それとは違う姿で、つまり共に生きようとする道を探し、取り組んでみようとする可能性が開けて来るということです。そして、現実には、この世界の中にあって、それに取り組み出す場がある！ それこそが教会です！ 私が勝手にそう思うのではなく、神様が、イエス様がそういう場として与えて下さったのが教会なのです。なぜか？ 教会こそ、このイエス様のなして下さったことを知って新たに生き始めようとする者たちが集まった場だからです。